

平成30年度 吉野ヶ里町立東脊振中学校 学校評価結果

| | |
|--------------------|--|
| 1 学校教育目標 | 2 本年度の重点目標 |
| 未来にはばたき、自立する生徒を育てる | ① 確かな学力の定着と高度情報化への対応 ② 一人一人を大切に教育の推進 ③ 児童生徒の進路に向けた意識の向上 ④ 豊かな心の育成 ⑤ 学校間の更なる連携の推進 ⑥ 学校における働き方改革の推進 |

3 目標・評価

① 確かな学力の定着と高度情報化への対応

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 担当分掌(部) | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|-------------------------|--------------------|--|--|---------|-----|---|--|
| 教育活動 | ●学力向上 | 確かな学力の定着と家庭学習の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・1時間ごとに、「めあて」と「まとめ・振り返り」を全教科で100%実践する。 ・全教科で、学び合う活動を取り入れた展開を実践する。 ・学習規律の基盤となる「学習の心構え」を徹底する。 ・定期テスト前に学習する範囲や内容を具体的に提示し、家庭学習の深化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に「めあて」「まとめ」のカードを貼り、それを明確にした授業を行う。 ・学習指導案に「めあて」「課題解決」「まとめ・振り返り」を明記する。 ・一人3回の授業参観を行い、学び合う活動の実践法について研究を深める。 ・定期テスト前に、学習チェック表を配布し、計画的に学習が進められるようにする。 | 学力向上 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもたせるための「めあて」を明示し、「まとめ」を行うことを意識し、取り組むことはできた。しかし「まとめ」に関しては、時間の確保が十分でなく1時間の計画を具体的にこなすうえで授業に臨む必要がある。 ・授業参観については、各教科と道徳の授業で行い、指導法改善に生かすことができた。校内研究会において学び合う活動の方法について検討を重ね、実践した。 ・学習チェック表で、生徒一人一人の学習状況を把握することができ、学習が計画通りにできていない生徒には声かけを行い意欲を喚起した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「授業づくりのステップ1・2・3」を用いて授業を振り返り、授業改善の視点を明確にする。 ・道徳科の発問を参考に、すっきりとした分かりやすい発問や言葉遣いをする。 ・各クラスの背面黒板に、各教科の宿題を提示し、生徒のスケジュール管理や宿題の調整に役立てる。 |
| 教育活動 | ○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施 | ICT利活用による学習内容の理解促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板等を利用した授業づくりを行い、電子黒板の活用率が90%を上回る。 ・全職員のICT利活用のスキルアップを図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報教育担当者が定期的に「電子黒板の活用の仕方」等をまとめ、全職員に配布する。 ・ICT利活用に関するアンケートを作成し、職員の課題の把握・解決に努める。 | 情報教育 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が電子黒板を活用して授業を行った。しかし、職員間で活用する頻度に差があり、活用を高める必要がある。 ・ICT利活用に関する職員アンケートで、「職員がICTを利活用し指導できる」割合が、86%であった。さらにICT利活用のスキルアップを目指したい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板等の利活用状況を、学期ごとにアンケートを取り、状況を把握し、活用率を上げる手立てを考える。 ・ICT機器に対応するため、専門研修の開催など、教職員の資質向上に向けた取組を継続して行い、授業の改善につなげていきたい。 |

② 一人一人を大切に教育の推進

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 担当分掌(部) | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|-------------|----------------------------------|---|---|---------|-----|--|--|
| 教育活動 | ●心の教育(人権教育) | 人権意識を高め合い、自他を尊重する心情と行動力を持った集団の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・人権に係る道徳教育や学級活動に取り組み、差別を許さない意識と実践力を育てる。 ・人権集会などを工夫し、他者を理解しお互いを認め合える生徒を育てる。 ・職員研修を年2回(5月・8月)実施することや校外研修に一人1回は参加することで、職員の人権・同和教育に対する意識と指導力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳や学級活動の資料を共有し、実践を行う。また、指導内容等を通信などで家庭に伝え、保護者との連携に努める。 ・人権集会や平和集会を生徒主体で開催し、人権意識や実践力を高めるとともに、生徒が達成感を味わえるようにする。 ・校外での人権・同和教育に係る研修会を職員に周知し、確実な参加を促す。 | 人権・同和教育 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の人権週間実行委員会を中心に学級担任、PTAとの協働で実施し、人権問題を自分たちの課題として捉えるよう努力した。その結果、12月の人権アンケートでは22項目中13項目が向上し、人権意識の高まりが見られた。 ・12月に講師の先生を招き「人権へ幸せに生きるために〜」という演題で講演会を開催した。「部落差別」について分かりやすく訴えられ、生徒の人権意識や実践力を高めるために効果的な講演であった。 ・職員研修を年2回(8月・1月)実施した。1月に実施した部落問題の研修では、職員の理解が深まり社会科と教科等の連携の体制づくりができた。 ・全職員が各種研修会に積極的に参加し、人権・同和教育に関する理解を深めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科において、人権問題にかかわる内容項目の指導の工夫、平和教育、年2回の人権週間などをさらに充実・発展させていく。 ・「東中人権宣言」や「いじめ防止宣言」の各条文(行動目標)が生徒たちの行動として現れる学校にするために、人権集会や生徒集会の充実を図る。 ・日常生活に見られる偏見や差別について正しく認識できるように、人権教育をさらに工夫していく。 |
| 教育活動 | ○生徒指導 | 生徒理解と開発的な生徒指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で密な情報交換を行い、全職員で共通理解を図る。 ・学校生活が楽しいと回答する生徒の割合が80%を上回る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会を定期的に実施し、情報共有及び生徒理解に努める。 ・出番・承認・称賛による開発的な生徒指導の充実を図り、生徒の自己肯定感を高める。 | 生徒指導 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月、生徒指導協議会を開催し、情報共有及び生徒理解に努めることができた。 ・学校生活が楽しいと回答した生徒は、1年生が94%、2年生が90%、3年生が98%であり、目標の80%を上回った。 ・学校行事等を通して、生徒の活動を励まし、称賛する姿勢を大切にすることで、生徒の自己肯定感を高めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・出番・承認・称賛を徹底し、生徒の自己肯定感を高める。 ・Q-Uアンケートによる学級集団の実態把握や対応策の検討を今後も継続して行い、生徒の変容を把握しながら、開発的な生徒指導の充実を目指す。 |
| 教育活動 | ●健康・体づくり | 運動習慣の改善や定着化 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツへの肯定感や愛好度を高め全国平均を上回る。 ・体力テストの結果をもとに全ての生徒に個人目標を持たせ、実践への意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育や食育、保健体育科の指導の充実を通して、運動やスポーツへの肯定感や愛好度が高まるよう支援する。 ・体力テスト項目について、県や国の平均などを基に自分に適した目標を設定させる。 | 保健体育 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査(対象：2年生)において、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」という設問では、男子は全国平均88.8%に対し学校平均92.8%、女子は全国平均78.9%に対し学校平均100%といずれも全国平均を上回った。 ・「自分の体力・運動能力に自信がありますか」という設問では、男子は全国平均52.3%に対し学校平均60.7%、女子は全国平均36.2%に対し学校平均56.3%といずれも全国平均を上回った。 ・体力テストの結果をもとに生徒に個人目標を持たせることができたが、目標を設定する時期が遅かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の授業(体育理論と体育実技)と生徒会活動を関連付けて、運動やスポーツに親しむ環境を整えるようにしていく。 ・保健体育の授業や体育的行事、生徒会活動を通して運動やスポーツに触れる機会を設定し、生徒が毎時間の授業で肯定感を高められるようにしていく。 ・体力テストの実施前に県や国の平均などを基に一人一人に適した目標を設定させることで、実践への意欲を高める。 ・体力テスト実施後速やかに目標を設定させ、年間を通して体力の向上を図っていくという意欲をもたせる。 ・東京2020オリンピック、パラリンピック開催に合わせて、主体的に運動やスポーツに親しむことができるように保健体育科の指導を通して支援する。 |

| ③ 児童生徒の進路に向けた意識の向上 | | | | | | | | |
|--------------------|--------------------|--|---|--|---------|-----|---|---|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 担当分掌(部) | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
| 教育活動 | ○キャリア教育の充実 | 望ましい勤労観の形成と進路選択能力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 進路決定のための学習を充実させる。 生徒自らの意志で、進路決定ができるように支援する。 | <ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望がもてるような進路指導を実践する。 職場体験学習等の実施により、早い段階で自分の進路について真剣に考える機会をもてるように指導する。 | 進路指導 | B | <ul style="list-style-type: none"> 1年生においては、「職業調べ」や「職業人に学ぶ会」を実施し、職業観を広げるとともに、自己の将来や生き方について主体的に考えさせる機会を設けた。 2年生においては、8月に職場体験を実施するとともに、それに向けて「職業講話」や「マナー検定」を行い、職業に対する理解を深めさせるとともに、社会人として生きていく上での必要な資質を高めた。 3年生では、高校説明会や体験入学などを通して、進路や将来の生き方について具体的に考えさせるとともに、今後の生活や学習の在り方について考える機会を設けた。 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度、各学年で実施したキャリア教育の取り組みは、来年度も引き続き実施する。 キャリア教育を実施する過程において、学校の学習と社会とを関連付けた教育が必要不可欠である。そのためにも、さらに家庭や地域との連携を強め、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。 |
| ④ 豊かな心の育成 | | | | | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 担当分掌(部) | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
| 教育活動 | ●いじめの問題への対応 | いじめの未然防止と早期発見 | <ul style="list-style-type: none"> 職員間で密な情報交換を行い、生徒の実態把握に努める。 生活アンケートを実施し、いじめや問題行動の早期発見と対応を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> いじめへの組織的な対応体制を作り、未然防止に向けて、定期的に職員間の情報交換を行い、共通理解を図る。 きめ細かな実態把握に努め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底を図る。 | 生徒指導 | B | <ul style="list-style-type: none"> 毎月、生徒指導委員会を開催し、情報交換を密にした。また、その情報については、職員誰もが共通理解できるようにデータ化を図った。 週末に生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めた。 今年度、いじめの認知件数は3件であった。3月時点で3件とも解消しているが、今後も、家庭との連携を大切にし、いじめの実態把握と早期対応を徹底する。 | <ul style="list-style-type: none"> いじめ予防及び対策については、引き続き、組織として対応する。 生活アンケートを継続して実施する。 家庭において、SNSの利用に関するルールを設定し、厳守するよう啓発する。 今後も、家庭との連携を大切に、いじめの実態把握と早期対応を徹底する。 生活アンケートの項目に、「家庭での様子」を開く項目を追加し、生徒の家庭での様子についても把握できるようにする。 |
| 教育活動 | ○読書活動の充実 | 学習に対する興味・関心等を呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 学年、教科との連携を図る。 図書資料の充実と環境づくりに努める。 朝読書の充実を図り、1人1か月に3冊貸出、年間6,000冊の貸出をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 学年・教科と連携し、図書に関する情報発信の機会を増やす。 生徒が親しみやすく、利用しやすい環境づくりに努める。 学級担任と連携をし、朝読書の充実を努めると共に、委員会と協力し、定期的なイベントを開催し、本に興味をもたせる。 | 図書館教育 | B | <ul style="list-style-type: none"> 毎月「図書館だより」を発行し、新刊や課題図書を紹介を行った。また、多読者の紹介や表彰を行うことで、読書への啓発を行った。 10月からバーコードシステムに移行し、貸し出しや返却作業の効率化を図った。 全クラスに学級文庫を設置し、朝読書において多様な本に触れる機会を設けた。 生徒会と連携してPOPコンクールやサマーフェスティバルを実施し、本に興味を持たせ図書室へ足を運ぶ機会の増加を図った。 本年度図書館の本のバーコード化の準備のため2か月間閉館となったが、10か月間で生徒への本の貸し出し4968冊(一人当たりの平均貸出冊数28冊)であった。 | <ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりを活用しての情報発信や、定期的なイベントの開催などは、本に興味をもつきっかけの一つにもなるので、今後も継続して取り組む。 朝読書においては、学級文庫や図書室の本を活用しての実施をすすめている。個人の本で朝読書を行っている生徒も見られるため、図書室の本を活用するように連絡を徹底する。 |
| ⑤ 学校間の更なる連携の推進 | | | | | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 担当分掌(部) | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
| 教育活動 | ●心の教育(道徳教育) | 重点内容項目 ・自主、自律、自由と責任 ・相互理解と寛容 | <ul style="list-style-type: none"> 小中合同研修会を実施し、共通理解と協働活動を推進する。 小中合同の体験活動を通して、生徒の自己肯定感を高める。 校内における公開授業を、全職員一人1回行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 月1回の小中連携推進委員会を活用し、研修会のもち方や、体験活動等の企画を行う。 研究授業の際には、相互に参観できるように、計画を立てる。 | 道徳教育 | A | <ul style="list-style-type: none"> 小中連携推進委員会を通して、小中合同での職員研修会や児童・生徒の体験活動の実施がスムーズに行われた。 小中合同の体験活動については、昨年度までの反省を生かして、小・中で意見交換しながら計画を立て、体験活動の内容を充実させることができた。また、活動の対象を生徒会から生徒全員に広げることができた。小学生からのお礼のメッセージは、それぞれが自己肯定感を高めるきっかけになった。 全職員が公開授業を行い、授業後の意見交換が高まった。 | <ul style="list-style-type: none"> 来年度の教科化に向けて、1時間の授業づくりの充実を図る。 そのため、授業に対する生徒たちの声に耳を傾け、より心に響く道徳科の授業を行い、学校行事や学年・学級経営との関連を図りながら、心の教育の充実を図るよう工夫する。 |
| ⑥ 学校における働き方改革の推進 | | | | | | | | |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 担当分掌(部) | 達成度 | 成果と課題(左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 長時間労働の解消 業務改善と環境整備に向けた取組 より適正な部活動の在り方 健康管理体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 町教育委員会の定める「学校現場の業務改善計画」をもとに、学校における働き方改革の視点で学校経営計画の重点目標に示す。 教育委員会が示すガイドライン等をもとに、従来の「部活動運営計画」を「部活動活動方針」に改め、より適正な部活動を指す。 教職員のメンタルヘルス対策を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 会議の回数削減や時間短縮、定刻終了に努める。 教職員の在勤時間をパソコンにより実態を正確に把握することができた。 毎週月曜日を部活動休業日、定時退勤推進日として退勤を呼びかけ、実施を徹底する。 部活動の休業日を「部活動活動方針」に定め、実施を徹底するとともに、保護者に周知する。 管理職は時間外勤務が多い教職員に対する産業医(学校医)による面接を奨励する。 | 教務 | B | <ul style="list-style-type: none"> 教職員の出勤管理用のパソコンを設置し、出勤時にクリックすることで自動集計することができ、実態把握に努めることができた。 毎週月曜日の部活動休業日は実施できたが、職員の定時退勤については十分に徹底していない。日々の業務を振り返り、定時退勤の徹底を図る。 12月に「部活動に係る活動方針」を定め、HPへの掲載により公表した。今後も毎月の活動計画及び活動実績を作成し、適正な活動が行われるよう、職員の共通理解を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の多い職員に対して、面談を増やし、ストレスチェック等を随時実施する。 時間外勤務が多い教職員については、管理職から産業医(学校医)の面接を奨励し、職員の健康管理の把握に努める。 今後も健康づくりやメンタルヘルスについて専門の講師を招き研修会を開催し、職員の健康の保持推進を図る。 定期的に部活動顧問会を開き、部活動活動方針の実施の徹底について確認を行い、問題点があれば早期に解決を図る。 |

3 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

・学方向上については、昨年度からの継続で、「めあて」「話し合い活動」「振り返り」「まとめ」を授業の柱として実践を行っている。学習の見直しをもたせるための「めあて」を明示し、「まとめ」を行うことを意識して、授業を展開することができた。しかし「まとめ」に関しては、時間の確保が十分でなかったという反省から、1時間の計画を具体的に持って授業に臨む必要がある。また、「授業づくりのステップ1・2・3」を用いて授業を振り返り、授業のどこを改善するのか、わかりやすい発問とはどんな発問なのか等、授業改善の視点を具体的に検証することが大切である。

・佐賀県学習状況調査において、県平均を上回ることができていない教科もあり、今後さらに、家庭と連携して家庭学習の充実を図ることが大切である。

・不登校対策については、週1回実施している教育相談部会において、SSWをメンバーに加え、情報交換を密にし、対応を協議してきた。また、今年度から、不登校生徒の情報を共有し、具体的支援について協議し方針を決めるため「不登校生徒支援ネットワーク連絡会」を設け、町教委、町福祉課、SC、SSW、民生委員等に参加を依頼し、毎月一回開催した。次年度も継続して教育相談部会や連絡会を開催し、生徒への支援を継続していきたい。

・生徒指導においては全般的に落ち着いた学校生活ができている。次年度もSNSの利用など心配される事案については、生徒、保護者に注意喚起し、適切な利用を図るために情報モラル教育の充実と細やかな指導を行う必要がある。

・人権教育では、年に2回の人権週間や人権集会、また、講演会などを通して互いを思いやる心を育てることができた。次年度も「東中人権宣言」や「いじめ防止宣言」の各条文(行動目標)が生徒たちの行動として現れる学校にするために、人権集会や生徒集会の充実を図る。

・小中連携教育については、昨年度からの継続で月に1回推進委員会を開催することで、小中合同での職員研修会や児童・生徒の体験活動の実施がスムーズに行われた。次年度も推進委員会、小中合同研修会を開催し、共通理解と協働活動の推進を図る。また、児童・生徒の体験活動を実施し、生徒の自己肯定感を高めたい。

・部活動については、生徒たちが熱心に取り組み、県大会、地区大会において、好成績を上げた部活動もあった。本年度12月に「部活動に係る活動方針」を定め、HPに掲載し公表したが、今後も毎月の活動計画及び活動実績を作成し、適正な活動が行われるよう、職員の共通理解を図る。

・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、次年度も、長時間労働の解消、健康管理体制の充実、適正な部活動の在り方等の課題について具体的な改善策を検討し、職員の共通理解を図る。

●は共通項目のうちの必須項目、○は独自評価項目